



2016年12月13日

ドナルド・トランプ次期米大統領は大統領選の前から、ツイッターへの投稿を通じて株式相場が動くのを楽しんでいる。つまり、少なくとも特定の日については、ツイッターが市場で次に何が起きるか投資家に伝える可能性があるということだ。

ある調査では、連邦公開市場委員会（FOMC）について、会合前にソーシャルメディアへの投稿をくまなくチェックして株式相場の反応を予測しておくことが有意義である可能性があることが明らかとなった。

これは、いわゆるクオンツ投資家が取引のヒントを得ようとアルゴリズムを駆使してソーシャルメディアの情報をかき集める時代になってから明らかになった最新の調査結果の一つだ。

同様の結果は、FOMC 発表前の株価変動を分析したこれ以外の多くの調査でも確かめられている。ニューヨーク連銀のエコノミストは「FOMC 前の不可解な傾向」、つまり FOMC の結果発表直前に株式相場が急騰する傾向について調査した。その結果、1994 年から 2011 年までの間、FOMC の結果発表前 24 時間での S&P500 種の投資リターンは年 3.9%となる一方、それ以外の期間は 0.9%にとどまっていたことが分かった。

想定外の事態でもない限り、今回の FOMC は金融危機以来 2 回目の利上げで合意することがほぼ確実とみられる。17 年以降の利上げペースは未知数だが、これについて示唆する何らかの情報が出てくれば、市場の反応は大きくなる可能性がある。

ただ、FOMC 前の株高はすでに前倒しで起きている可能性がある。S&P500 種株価指数は過去最高値を更新している。

それでも、「FRB に逆らうな」という格言はおそらくこれまでにないほどの的を射たものとなるのではないかと思われる。